

教育・人材育成

ひとりでも多くの子どもの教育を

— 奨学生の選考基準 —

6月、新学期が始まっているアトゥモロック小学校学区内のキリルダタル村を訪問しました。古川理事(P5参照)が学校に行かない子どもに気づき、メグレリン先生に事情を尋ねました。当会の奨学生選考に落ち、学費が払えないそうです。

帰国後CMIPに問い合わせたところ、このタスガリさんの家は大変貧しいとのこと。初等教育の奨学生選考で最優先されるのは貧困です。みな貧しいなか誰を選ぶか、選考にあたるプロジェクトマネジメントチームは毎年苦しい決断を迫られます。

古川理事の協力申し出を受けて、小学生新規受け入れ枠13名を14名に増やし、6年生のタスガリさんを受け入れました。3月の卒業まであと8ヶ月です。

— 5年目の給食プログラム —



7月中旬まで給食が始まらない。バナナの葉に包んだお弁当持参で登校する。(アトゥモロック小学校、6/11)



CMIP運営の小学校5校における給食支援は、今年5年目を迎えます。根菜類や豆類を自宅の庭に植える指導を通じ、子どもたち全員がお弁当を持ってようになるまで、あと2年の支援を予定しています。陸稲適地が少ない地域では、ご飯なしの食事が2週間続くこともあります。ご飯が大好きな子どもたちにとって、週3回の給食は雑炊の場合もありますが、心と胃袋を満たしています。

— 教科書・教材の整備 —

読み書き計算の基礎を学ぶ幼稚園と小学校1-2年生の学習には、分かりやすい教材が重要です。

教育実習を経験した卒業生から「教科書があればもっと学習効果を上げられるのに」という声を聞き、CMIP運営の6校を対象に教科書の配布を実施しま

す。新学期開始には間に合いませんでしたが、小学校1-2年生に英語と算数の教科書240冊、3人で1冊の割合です。(WE21 ジャパンさいわい助成事業)

— 先住民族出身の小学校教師育成 —

昨年合格の2名を加え、計4名が小学校教員国家試験に合格し、CMIP運営小学校や公立小学校で同じ先住民族子弟の教育に当たっています。昨年不合格のメグレリンさんも、アトゥモロック小学校で教えながら9月の試験に再挑戦します。

低学年の生徒にとって、同じ民族の先生が教える方が分かりやすく、理解不足にならないようです。

— 活躍する先輩たちの背中から学ぶ —

先住民族の子どもたちの学習意欲を持続させるものは先輩の活躍です。上記のように給与の良い公立小学校教師は憧れですが、他にもがんばっている先輩たちがいます。

*ボニファシオさん(農業指導):今年松尾基金による持続可能な農業の指導に当たっています。

*スヌーリアさん(村役場勤務):篤志家の支援により、9名のハイスクール生のための奨学金運営と農園管理に当たっています。



奨学金の財源の一部。ジャガイモ、コーン畑とスヌーリアさん

*ビルマさん(幼稚園

教師):村役場の書記を経て、今年から新設の公立幼稚園教師になりました。

*ミエルナさん(NGO勤務):2年ぶりにメールをもらいました。鉱山会社解雇後にNGOに就職したそうです。

地域に開かれたミアソン寮に!



ミアソン寮の奨学生は今年5名。学習環境の整った寮を地域のために開放予定です。